

は し が き

一人ひとりの子供の個性や能力を生かし、生きがいと自己価値感をもたせることのできる教育を待望して久しいものがあります。このことは、社会の変動や価値観の多様化がますます激しくなってきたとき、その影響を強く受けている子供をみると、教育にたずさわっているものの等しく望んでいることですが、とにかく、教科の指導に比重がかけられて、心の健康を育てようとする教育、精神衛生の原理にたった教育は、期待されているほどには充実していないのが現状のようです。心の健康増進とか、不健康の予防・治療といっても、その対象の性質からみて非常に複雑であってとらえにくい面をもっており、また、そのように複雑なものを、単に外形的にとらえるだけで指導できない困難さがあるためでしょう。

このような要請に応えるべく、学校における教育相談の重要性が10年ほど前から強調されてきました。当センターでもこのような事情を背景に、昭和39年度から学校カウンセラー養成定期研修を開設し、今日までに修了者も200名を越えるまでになりました。学校教育相談については、その理論や方法、位置づけや運営その他、基本的な点においてまだ量質とも未開拓な面も多く、幾多の問題点をかかえております。研修修了者各位が、これらの問題点の解明や実践の定着化を図って、それぞれの地域や学校で活躍されていることは、非常に頼もしく心強い限りです。

本年度もまた、前年度当センターの学校カウンセラー養成定期研修をおえられた23名の方々の実践研究を編むことができました。これら23編は、1年間にわたって子供の可能性をみつめ、ともに歩んできた道程であり、貴重な体験の集積であるとの感を深くしております。

ここに至るまでには、研究された先生方の苦勞は大変なものであったと思いますが、各校の校長先生はじめ諸先生方の御理解と御協力のたまものと考え、心から感謝いたします。

また、この実践研究は、日常取り組んでおられる教育相談活動が対象として出されているものであり、事例によっては、他の接近の方法もあるかと思しますので、各研究に対しては、大方の御批正と今後の御指導を賜りますとともに、各学校のみならず、広く地域の教育の発展に御活用願えれば、まことに幸いに思います。

昭和50年11月14日

新潟県立教育センター所長 高橋 節也